

中核機能強化（事業所）加算における地域の障害児に対する支援体制の状況及び中核機能としての体制の確保に関する取り組みの実施状況について（令和 6 年度実施分）

4 つの中核機能（①幅広い高度な専門性に基づく発達支援・家族支援機能）、②地域の障害児支援事業所に対するスーパーバイズ・コンサルテーション機能、③地域のインクルージョン推進の中核機能、④地域の発達支援に関する入口としての相談機能）についての実施状況は以下の通り。

① 幅広い高度な専門性に基づく発達支援・家族支援機能

○自立支援協議会（こども部会、教育部会、相談支援東部部会）に参画。

- ・こども部会（2 ヶ月に 1 回実施）では主に「事業所間の顔の見える関係づくり」と「地域の支援力の向上」を目標に市内の 5 センターと協力して、企画・立案をし、実行した。情報交換に始まり、テーマに沿ったグループワークを毎回行い、見えてくる地域の課題を全員で共有した。
- ・教育部会（2 ヶ月に 1 回実施）では学校と福祉の連携を図ることを目的として協議を行った。教員と相談支援専門員との座談会の実施、また児童版福祉サービス利用説明書の作成を行った。
- ・相談支援東部部会（毎月実施）では地域課題の抽出を行うとともに、相談員の質の向上を図るためグループスーパービジョンを行った。また、関係機関からの役割・支援内容の説明を受ける機会を設けた。

○同一法人内に指定放課後等デイサービス事業所（旭川児童院通園センター、わかくさ学園いちご）があり、日々連携を取っている。

○地域で生活する障害児を育てる学齢児の親が集まり、交流やピアカウンセリングを行う機会（たんぼぼサロン）を提供した。学校や放課後等デイサービス事業所を利用するにあたっての困りごとや防災、成人後の生活の見通し等について情報交換を行った。計 91 名の保護者が参加された。

② 地域の障害児支援事業所に対するスーパーバイズ・コンサルテーション機能

○市内の障害児通所支援事業所等に向けて「発達検査・知能検査」についての講演会を実施した。各種検査結果の読み取り方を知り、また支援への活かし方を学ぶ機会を提供した。

○東区及び中区の障害児通所支援事業所等が参加できる研修会等を 3 回開催し、計 73 名の職員が参加した。事例検討及び情報共有の場を設けることで療育の質の向上、横のつながりの強化を図った。

○地域の児童発達支援事業所からの希望を受け、見学の受け入れを 1 件行った。発達支援を行う上での情報共有と役割分担の工夫を知ることが目的として、療育の様子を見学してもらうとともに、情報交換を行った。

③ 地域のインクルージョン推進の中核機能

○保育所等訪問支援を実施。今年度は「3 件」の支援を行った。訪問先の内訳として、こども園が 1 件、幼稚園 2 件であった。園での様子を見学させてもらった上で、本人にとって生活がしやすい環境設定や支援方法について助言を行った。また、園での様子を保護者にフィードバックした。

④ 地域の発達支援に関する入口としての相談機能

○電話やメール、面談により相談支援を実施。子どもの発達の遅れを心配される方に対して、医療機関や福祉サービスの紹介、関係機関との連絡調整を行った。

○障害が疑われるこども、初診や療育待ちの子どもに対しての集団活動の経験の場を提供する目的で「ひよこ教室」を年 22 回開催した。ひよこ教室では保護者からの相談に応じ、同じような悩みを抱えられている保護者同士の出会いの場も提供した。